



学校だより

令和3年度 2月号

横浜市立庄戸小学校

笑顔がかがやく 子どもが主役の学校

～感動いっぱい 夢いっぱい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～

庄戸小ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shodo>



あげパンはどうして1年に3回しか出ないのか

たけはた たかし

副校長 竹端 岳

1月24日から30日までの1週間は「全国学校給食週間」となっており、本校でもさまざまな取り組みが行われました。取り組みの一つに、カレーライスを調理する過程や給食調理員さんからのメッセージなどを収めた映像がつくられ、給食時間に放映されました。その中で「栄養士の先生にきこう」のコーナーでは、児童から「あげパンはどうして1年に3回しか出ないのですか。」という質問が出されました。それに対して、週1回、上郷小学校から派遣に来ている栄養士の木家先生は、次のように答えました。

『『うれしい、楽しい』ということは何回も続くとうれしさ、楽しさが半減します。また、おいしい（と思う）ものも、食べ続けると体に悪いことがあります。』

確かにあげパンが頻繁にメニューに登場したら、次のあげパンへの期待感は薄れるし、糖分の摂り過ぎで体にはよくないでしょう。しかし、それ以上にこの言葉には重みがあります。単に給食だけに当てはまることではないからです。学習や生活全般、はたまた、これからの子どもたちの人生にも同じことが言えるのではないのでしょうか。

人生は自分にとって楽しいことばかりではありません。特段楽しくなかったり、いやだったりした経験でも、実は自分の成長にとっては必要だったと、後々わかることがあります。また、そういう時があるからこそ、次にやってきた楽しみなことが「楽しい」と心から思えるのかもしれない。

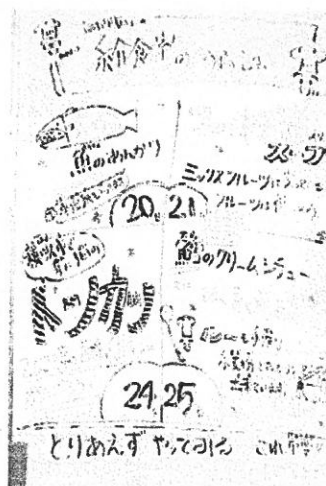
給食のほかで言えば、小学生ならとりわけ教科、友達、先生、遊び方などでしょうか。いつもいつも好きな教科、気の合う友達ばかりに出会うわけでは当然なく、「普通に」過ごす時間、苦手な場面やつらい経験を経て、だんだんと大きくなっていきます。もちろん、楽しい経験を存分にさせてあげたいと思うのが親心というものが、同時に、それだけでは生きていけないことも親は知っています。

思えば一昔前に比べると、いくつもの選択肢の中から生き方を選べるようになった今、自分の好きなものしか選んでいないか、そして、苦手なこと、嫌なことを避けて通っていないか、考えさせられる言葉でした。

もう一つの児童の質問は「きれいなものを食べられるようにするにはどうしたらいいか。」でした。木家先生は、きれいなものを「先に食べること」をおすすめしていました。少しでも口にすることでいろいろなものの味を知ることができ、食べられるものが増えていくというのです。こちらの意味深いものがあります。

決してつらいことを我慢なさい、耐えなさいと言っているのではありませんが、小学校のうちはさまざまな経験を通して、知識を身に付け、他人（ひと）の気持ちを知り、見方・考え方を広げ、成長して行ってほしいと思います。

次のあげパンは3月2日です。



栄養士 木家先生作「給食室のうら話」
給食室ホワイトボード

◎2月11日（金）より、健康観察と欠席連絡は、原則「ロイロノート」で行います。

ただし、学校へ欠席の詳細について伝えたい場合は、電話や連絡帳でのご連絡でもかまいません。

学校から家庭への連絡については、これまで通り、電話でさせていただきますので、ご了承ください。

◎ロイロノートにその日の体温と出席・欠席を記入して、朝8：15までに送信をお願いします。